

プロヘパールの効果(100728)

在庫薬の見直しをしていたときにプロヘパールを発見。使えそうなら使いたいが……。個人的にはあまり処方したことが無いので、プロヘパールの効果を調べてみることにした。

ちなみに、プロヘパール 1錠中には、肝臓加水分解物 70mg、塩酸システイン 20mg、酒石酸水素コリン 100mg、イノシトール 25mg、シアノコバラミン 1.5 μ g が含まれている。「肝実質細胞とくにミトコンドリアと細胞核を中毒性障害から保護し、肝実質の再生を促進し肝機能を強化するとともに血流を盛んにし利尿も促進する」という作用があるという……。

まず、PubMed で Proheparum で検索したところ、1件のみ検索された(参考文献 1)。ただ、抄録が確認できなかったことと、論文がすぐ手に入らなかったので別の情報を探すことにした。参考文献 2 はかなり古い論文だが、ポイントをまとめてみる。

- プロヘパールは新鮮な肝臓を水解して得られた肝水解物で肝組織の必須アミノ酸と細胞核から遊離せしめたプリン体ならびにピリシジン塩基を含むとされる。これらの核物質の有する肝庇護作用ならびに肝実質の再生および解毒作用の促進がプロヘパールの主なる薬理作用と考えられる。
- 慢性肝炎、肝硬変症に著効があったとする報告がある。
- アルコール性肝障害に対して肝生検増の改善をみたという報告がある。
- 慢性肝炎(輸血後肝炎や薬剤性肝炎も含む)にプロヘパール静注薬が有効であった。

まあ、症例報告が中心で、RCT では無い。効果といっても、検査上の改善といったものがメインで、臨床イベントを評価したものではない。添付文書では臨床成績の部分に、「慢性肝炎を対象とした二重盲検比較試験で本剤の有用性が認められている。藤沢 洵 他: 肝胆膵, 4, 801~819 (1982)」との記載があるが、内容は吟味できなかった。

結局、はっきりとした効果はよくわからないままである。(なんとなくそうなる予感があったが……。)

肝庇護剤については漫然と使用すべきでなく、原因疾患の治療が最優先されることはもちろんである。参考文献 3 の題名の通り、効果もさることながら、治療の目的をはっきりさせておくことが必要だ。

- 肝疾患に対するこれらの薬剤の有効性を示すに足る論文は渉獵し得ず、その使用ははなはだ疑問
- 「肝庇護剤」という用語自体がきわめて愛味な用語であり、補完・代替療法(complementary and alternative medicine) との異同も明確でなく、不用意に使用すべきでない
- 一般臨床家は肝疾患患者を診たら少なくとも頻度の高い疾患を鑑別し、「肝庇護剤」を漫然と投与することは避け、疾患に応じた治療をなすべき

患者の意見や今までの病歴/服薬歴を無視して中止するわけにもいかないし、現在服用している患者については、相談しながら処方をしていくことになると思う。薬はそれほど高くない。

ただ、自分で処方する時には躊躇してしまう。出すなら他にも選択肢がありそうだし、プロヘパールでなければならない理由は無さそう。使い慣れない薬なので、経験のある先生の意見も取り入れながら使用していきたい。

薬価

プロヘパール配合錠 1錠 7.4円(1日に3~6錠なので、1日の薬価は22.2円~44.4円である。)

参考文献

1. Hatamori N, Nakaoka T, Yoshida H, Mimoto H, Hirohata T, Yun S, Morita S, Kasuga M, Hayashi Y, Mizoguchi Y. [A case of prolonged liver injury caused by low dose of acetaminophen--the involvement of other multiple drugs such as Proheparum and Mazulene-S was considered in this drug-induced hepatitis] Nippon Shokakibyo Gakkai Zasshi. 1993 Nov;90(11):2945-50. Japanese.
2. 天谷知佑ら.プロヘパールによる肝疾患の治療経験.基礎と臨床, 9(13): 3354-3357, 1975.
3. 道免和文.肝疾患患者に対しての漫然とした「肝庇護剤」投与は意味がなく、疾患に応じた薬剤を使用すべきである.治療, 87: 735-737, 2005.